

B 29

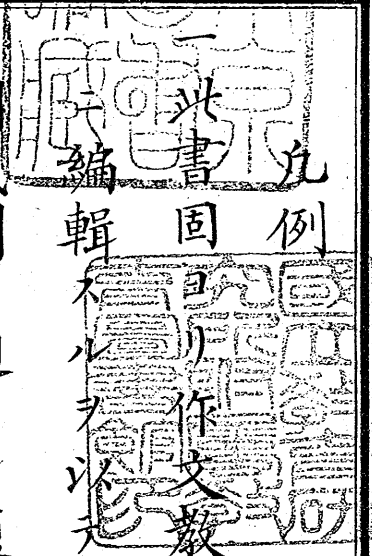
3 4 2 1



渡邊源太編輯

小  
中  
等  
科  
作  
文  
書  
卷  
壹

版權所有 友松軒發兌



凡例  
 此書固  
 編輯  
 其作例  
 教授ニ供  
 セン為

用民間ニ適スル題ヲ撰ビカメテ  
 俗語ヲ用ユ然レ生徒ノ學力ニ由  
 リ文中亦雅辭ヲ用キザルヲ得ズ

凡例  
 九

故ニ上欄ニ類語ヲ掲ゲ以テ其需  
ヲ待ツ

一 中等科ヲ第六期ニ分チ第一期ヲ  
六級トシ逐次稍高尚ナル作例ヲ  
示シ第六期ニ至テ終ル  
一 日用書類ハ務メテ生徒ニ熟字類

語等ヲ解セシムルヲ要ス

一 日用書類ハ既ニ初等科ニテ習ヒ  
シ故ニ此科ニ於テハ文字ノ用方  
ヲ瞭解セシメ且事理ヲ辨シ文意  
通暢ヲ第一トシ授クベシ

編者誌

小學中等科作文書第一

目錄

- (一) 年始之文
- (二) 同返子
- (三) 室中兄弟之文
- (四) 同返子
- (五) 郊遊を促す文
- (六) 同返子
- (七) 新茶を贈る文
- (八) 同返子

小學中等科作文書第一

(九) 暑中見舞之文 (十) 同返之

(土) 納涼誘引之文 (土) 同返之

(圭) 月看小友を招之文 (曲) 同返之

(圭) 到奉物を祀ふ之文 (共) 同返之

(屯) 歳暮之文 (大) 同返之

(先) 入学を誓ふ之文 (平) 同返之

(世) 轉宅を祝ふ文 (世) 同返之

(世) 宗店を報ふ之文 (曲) 同返之

(世) 人招之文 (共) 同返之

(世) 墨を贈ふ之文 (共) 同返之

(世) 神子二人を招之文 (平) 同返之

用文類語

鳳曆履端 ホウレキ。リタン。  
嘉儀吉社 カギ。キツシ。  
芽出度申 メデタシ。マシ。  
收候御渾 オササウ。ゴコン。  
家 カ。

小學中等科作文書第一

和泉 渡邊源太編輯

日用文 第一期

(一) 年始之文

新年之由吉慶千里同風目  
出度申納在先以市金家出

御壯健履  
 新恭賀一  
 同加齡休  
 神年甫祝  
 辭永陽不  
 宣敬白

持此機嫌能出重氣と来年  
 敬賀此次と拙完無美如年  
 仕候亦色懐所安心可也  
 在右年好之由祝詞迄如  
 新之由望之由尚期永白之  
 时在謹言

年頭祝辭  
 披見高堂  
 御多祥重  
 年珍重拙  
 家弊屋何  
 茂加年休  
 慮貴荅頌  
 首

(二) 今返事

改年之由帖得免致此貴系  
 法安全法超歳法氣由由  
 賀之至之隨多私者無之  
 重給仕在系法者慮可也  
 下在右法答旁年頭法礼



寒威烈寒  
氣相增壯  
榮敬賀拙  
宅無事御  
安心此菓  
子輕微印  
進上不一

申送在拜復

(三) 寒中見舞之文

嚴寒之候  
跡去壯健  
幸察以隨  
予小生無  
障暮在在  
間亦省念  
之以此者  
輕少之至  
之在得在  
見舞

教示寒氣  
凜冽伸者  
佳品美菓  
御惠贈御  
攝養尊酬  
貴報畧答  
不盡

驗迄呈上付在石備

(四) 今返事

如奉諭之氣  
雖凌在備  
見舞之  
美者法  
備在  
看存  
在尚  
時候  
法保  
答  
祈  
以  
右  
之  
在  
已  
將  
復

一翰拜呈  
追々春風  
暖和郊外  
黄菜滿開  
寬々曳筇  
散步同伴  
御報尊答  
九拜頓首

(五) 郊遊と促す文  
御啓陳と遊日暖和と成  
野辺に菜花も生深少と  
好景色少何日午後と  
一様お携り出同遊如何と在  
裁書報答と交書侍承再

尊翰花墨  
披閱如教  
諭暖氣百  
花爛熳好  
風光漫步  
御誘導閑  
隙御同遊  
貴答敬白

拝  
(六) 今返事  
貴書御見ぬ命と春暖と催  
菜花生深少と趣と遊歩出  
誘引と在在謝と幸と  
采暇と在故法同抄珍友

小學中業  
竹文書卷壹  
四

不具。

時下向暑。

薄暑壯勇。

剛健敬賀。

伸者新茗。

到來一壺。

既下分贈。

進呈笑納。

在古出報述子之類之

(七) 新茶を贈り文

薄暑候急事安否御察

在陳生中新茶自製小

了味如何之在得在之

袋進上致在問亦笑留在

叱留幸甚。

不宜不乙。

不罄。

朶雲玉章。

瑤簡借佳。

茗美茶御。

惠贈御厚。

情千謝隨。

下在り大慶之至之存在

子之不盡

(八) 全返事

所紙面紙讀体今朝之

茗步投與之在厚情之

後亦幸謝在依于此亦在

而輕微進  
上持荅拜  
復

甚暑大暑

溽暑炎威

赫赫御勝

常御暮欣

賀雀躍舞

輕少法名礼之旨追掛法  
目在暑者

(九) 暑中見舞之文

酷暑難堪  
壯法起居  
之至之存  
此水望少

踏此西風

水菓子輕

少進呈進

上禦暑相

成慶賀不

淺不斜時

令保養第

一御紙面

おぼろが上におる消暑

一助に成下おる

大暑不過ぎる為時候

由自愛祈おる也

(十) 今返事

赤子残披見火命暑氣

甚暑日苦 貴君尊兄 御壯榮林 賀時下御 尋問美品 御投與拜 謁拜眉可 申陳不詳

烈發在平家見古勇割  
之由彼在... 候西見舞... 贈... 之上... 申... 不悉

不一不盡 酷暑御同 困矮屋實 水邊散步 晚涼佇立 河邊納涼 貴君御他 約無之晚

(土) 納涼誘引之文  
炎暑者難堪如何 消暑之  
咸在哉 叔某橋邊 納涼  
至極 勿之憂 由而閑暇  
小... 春...  
步同... 春...

景御同伴  
尊報乞  
如來論炎  
威難堪困  
臥納涼一  
層佳興河  
橋畔遊步  
晚行誘引

待在水子之室  
(三) 今返事  
如教示酷暑難凌在某  
橋辺夕涼一入旅之  
水中倚波竹多希望  
致在水法誘引亦亦

詩友吟友  
千謝奉復  
即答  
今宵三五  
屬映晴  
獨幽窓水  
樓一酌對  
酌遊賞御

奉謝在水必也同遊之友  
水样之答  
(三) 月看水友を招之文  
今晚生秋之最中殊之  
晴天看私小樓少於之  
看月小集在水催友以名貴

小學中詩

作友人書長

八

都合如何  
相伺不序  
不乙

朶雲花簡  
諸清遊宴  
會詩會招  
待深謝用

君亦用字在り光来  
之程ホドを以て敬白ケイハク

(五) 全返事

貴書所讀仕在陳今  
宵看月セウクワン之盛會セイクワイ法催マサキ之款  
少之態ワザク之招マサキ亦深謝

暇昇堂参  
館拜顔奉  
答

一簡一書

在幸心何も重支也  
之在間糸堂之得持  
眉以形之

(五) 到来物を配分を

多文

寸楮毎呈陳之今款去

唯今親戚  
肴鳥肉新  
鮮風味如  
何些少御  
配分笑納  
笑留大慶  
替首不既

芳方小松茸到來致  
付風味未試在へ其旨  
輕少法分贈仕在旨  
晚酌の一助と成下在  
り幸甚  
(六) 全返事

尊翰芳墨  
先刻佳品  
御投與賓  
客親類寄  
合一同賞  
味昇堂参  
上申盡敬  
復

先翰承見唯今は何寄  
之品未分贈下亦在在  
折柄客来有子也  
お用事家至極之風味  
以余も某堂之旨法禮  
可一述在畧名



光陰忽々 如矢歲月 如奔川御 煩用塩鱧 粗酒歲晚 歲末御叱 留御笑止 再拜

(七) 歲暮之文

歲月推迫り 嗚呼多用 と事案在 隨ふ塩肴數 尾年暮々 臨迄進呈 仕白方 亦笑納 可下在 書余之 東陽之時 讓

王水水様

(六) 今返事

如來諭如 命嚙御多 用御煩忙 奉察美品 御投與御 惠塩肴塩

如奉諭 器又本年 亦其 餘日 亦多忙 亦同探 亦 亦亦亦 亦亦亦 亦亦亦 亦亦亦

御賢息御  
印。獻上進  
呈。御笑留  
不宣不一

御賢息御

御文書卷第...

謝水依子日... 進上仕水... 下は不詳

(先)入學を賀する文

奉令息儀某小学校へ

入學奉賀  
生得學業  
成就修身  
書。科程御  
用。不悉不  
し。

入門之由... 氣質... 進上仕水... 下は不詳

小學...

...

十二



小屋落成シヨウオクラクセイ  
 一昨日轉イツサクドウテン  
 移早々御イササクオン  
 祝美品御イワイビヒンゴ  
 投與拜納トウヨハイン  
 御荅不宣ゴトウフセシ

(世) 全返事

茅屋畧落成ハクオクホク 在付サマ 田  
 五日安イチノヒヤ 漸シヅカ 轉テン 住ヂウ 仕  
 在早送イササク 祝イワイ 々々ヒン 住ヂウ 仕  
 出デ 給キ 奉ホウ 受ジュ 珍ジン 右  
 所シヨ 報ホウ 身ミ 送ジュ 礼レ 多タ 色シキ 勿ナク

今般私宅コンバンシタク  
 某所何店ソノトコロナンミセ  
 開ヒラ 何ナニ 來トガ  
 御用向御ゴヨウムキゴ  
 報ホウ 道ドウ 不フ 盡ジン

(世) 関店を報する文

一書呈上仕在付及私身  
 某所之於之紙墨カキ 関店仕  
 以る多少之限カキ 以用南ムナ  
 上作下度以候出タケ 報知中上仕也

貴墨尊翰  
 拜誦貴宅  
 御轉居米  
 店御開店  
 御通知隨  
 而粗肴進  
 呈不罄不

(詰) 同返事

多蒙書好談陳之貴系某  
 所へ轉任の深店は成  
 非趣少報知と旨目出度  
 友の依る粗酒を移す  
 祝し強進上仕

具。

招待肅啓  
 陳者某酒  
 肴久々御  
 對酌雅兄  
 御用暇午  
 后御光來

不備

(註) 人を招く文

啓今朝某氏より伊丹  
 酒到來に任せ久々之  
 對酌中友に對し先  
 用蒙る御光來午後四

不備頓首

時頃より去年遊幸侍奉  
ふ

(其) 今返事

貴書御紙  
上寵招干  
謝參上昇  
堂書餘拜

去年紙披免仕在叔只  
今も招を蒙り和奉  
謝の事も商用も亦漏

眉拜顔畧  
答拜復

一簡呈上  
平素所持  
支那人知

此方未示一刺と呈呈拜  
堂の致在餘も拝面  
之を譲り在好と在

(其) 墨を贈ふ文

寸楮好呈陳と平素は和  
有る物とは存つ在奈

已到來任  
進呈書画  
幸甚敬白

良吉已々者々里貫心受  
在親書子挺進上仕在  
万若習字々陰法用  
ふ下仕々大慶々至  
之存以再拵  
(共) 今返事

芳墨朶雲  
調法美品  
御惠投習  
字思之儘  
慰居拜顔  
拜眉御禮  
可申謝九  
拜

花多書好免疎々品今々  
何家々佳尔出投与々  
出落々因り思々通習字  
仕仕市日々樂々仕仕  
余々所濁々上出礼々  
中々以極々

小學中書  
作人書長  
十七

何日何々  
 社祭典祭  
 禮寒村市  
 中尊館尊  
 家御用閑  
 用暇御光  
 臨御入來

(初) 神事二人と招く文

明後歲日 俗年ノ通民  
 神ノ祭典ニ門外ニ旅  
 之儀ニ在方出象以同  
 以る重支等々以了午安  
 十時頃より出集車等

勿卒拜捧  
 叩首

待仕秘符等

(平) 今返事

玉翰鴻簡  
 拜閱御寵  
 招從御意  
 小童豚兒  
 同伴奉答

乃云云拜見仕仕修明白  
 去法多礼々々態々出招  
 御意下系等子謝儀出辞  
 小從心家内召連系上

神代卷 神事 十六



小學中等  
作文書卷終

可致在畧名

小學中等科作文書卷一終

明治十六年十月廿日版權免許  
全 年十一月出版

定價八錢

編輯人 大阪府士族

渡邊源太

和泉國南郡岸和田  
北町百九十四番地

大阪府士族

出版人 小牧六郎

和泉國南郡岸和田  
南町百十四番地

弘通書肆

大阪

田中太右衛門

泉貝塚

大石耕作

全

前川源七郎

全佐野

米納三四郎

堺

鈴木条吉

全樽井

西尾長平治

全

北村佐平

河内富林

隅谷政七

全

有則軒

全牧方

弓田喜平治

全

北村德平

大和奈良

坂田一郎

全

鈴木久三郎

全御所

岸宣美

泉岸和田

本田庄次郎

全八木

藤田伊三郎

K110,82  
68

